



当院の理学療法



理学療法と聞いて、ピンと来ない方は多々いらっしゃると思います。今回、理学療法について少しご紹介したいと思います。例えば、脳卒中などの病気や骨折などの怪我をしてしまうと、多くの場合は今までとは異なり自分の体の状態に変化が出てきます。今まで当たり前のように出来ていた、寝返る、体を起して座る、立つ、歩く、階段を昇り降りするなど人間にとって基本的な動作が出来るようにリハビリテーションを行っていくのが理学療法です。理学療法では、脳卒中や骨折だけでなく心臓病、糖尿病、呼吸器疾患、肺炎などの内科疾患など幅広い病気を対象に行っています。また、動作がただ出来るようになることだけでなく、日常生活以外に趣味や職場復帰などの社会復帰や社会参加を目指していくのも目的の1つです。

当院では、40名近くの理学療法士が配属しており、それぞれ入院・外来患者、通所・訪問リハビリテーション利用者に対し、リハビリテーションを行っています。入院では、一般療養と回復期の病棟に分かれており、回復期病棟では、リハビリテーション中心の患者さまが入院されています。当院での対象者として最も多いのが、脳卒中の方です。次に胸腰椎圧迫骨折（背骨や腰骨の骨折）や大腿骨頸部骨折（太ももの付け根の骨折）の患者さまが多くいらっしゃいます。また、誤嚥性肺炎などの病気でベッド上で安静にしている期間が長いと、どうしても徐々に身体は衰えてきます。体力が落ち筋力が弱くなったり、関節が固まりやすくなることはもちろん、心臓や肺の機能が低下することもあります。理学療法では、そのような病気や怪我をされた方に対し、弱った体力・筋力、関節の動きを高め、徐々に基本動作へとつなげていくような練習をしています。中には、退院後在宅へ帰られる方も多々いらっしゃいます。そのために、担当しているリハビリ職員や看護師、医療ソーシャルワーカーと一緒に患者さまのご自宅へ屋内・屋外の環境を評価させて

頂くことがあります。例えば、段差はあるのか、室内・廊下のスペースの広さはどうか、トイレ・浴室の環境はどうかなどを評価し、必要に応じて手すりの設置を提案したり、福祉用具の検討も行っています。更に、できる限りお家の環境に合わせた状態で理学療法を実施し、お家へ帰る準備を進めていきます。

理学療法では、このように様々なことを行っています。訓練を行いたく動作が出来るようになることだけが目標ではなく、出来るようになった動作を実際の生活の場でも行えるように練習していかなければいけません。そのためには、理学療法士だけでなく、医師を中心に他リハビリ職種や病棟の職員、医療ソーシャルワーカーなど院内の職員と連携をとりながらその方に合わせた理学療法を進めていく必要があります。今後も、当院を利用して頂いている方々に満足して頂けるような、その方に合わせた質の高い理学療法を提供できるように努めていきたいと思っております。

リハビリ療法部 家守 綾香



振り返ります2011年。

3月11日に発生しました東日本大震災では多くの尊い命が失われ、大きな被害を受けました。まだまだ復興への道りは険しく、多くの時間を必要とすることと思います。被災地の一日も早い復興を心から願います。さて今回の大災害には全国から医療救護班がかけつけました。当院も合わせて4回の救護班を派遣し、延べ13名の職員が福島県、宮城県での医療活動に加わり、多くのことを学ばせていただきました。とりわけ、人と人との繋がり、地域における絆のたいせつさは、私たちの明日への病院づくりにとって大きな財産になりました。地域からよりいっそう信頼される病院づくりへ、これからも職員一同力を合わせます。「昇龍興年」を祈念し、この一年のお礼を申し上げます。来年もよろしくお願いたします。